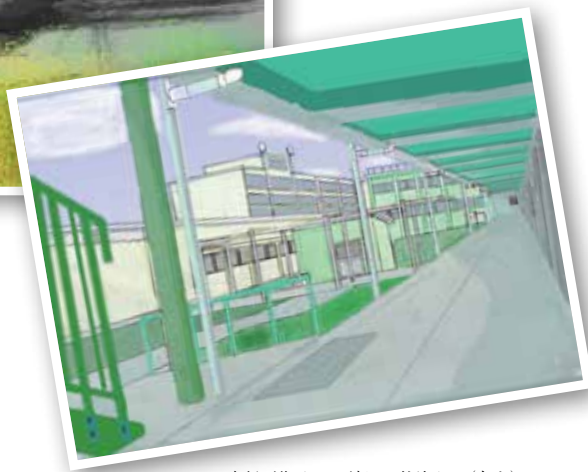


図書館だより

Library News No.78

National Institute of Technology (KOSEN) , Nara College

2021年2月 奈良工業高等専門学校図書館発行



表紙画像は、2E 濱田 壮汰さん(左上)
2M 藤原 優輔さん(中央)
2I 米田 竜也さん(右下)の作品

目次

巻頭言	2
クラス・個人多読表彰について	3
学生図書委員会 読書のすすめ	4
学生図書委員会 読書感想文	5
学生図書委員会 活動報告ほか	9

巻頭言

読書についての雑感

電子制御工学科 橋爪 進

私は読書が嫌いではない。むしろ本を読み始めると止まらないことが多い。食事の時間になっても体を動かしてないから一食ぐらい抜いてもいいだろうと考えるほどである。だから趣味は読書と公言したいところであるが、実際のところ読むジャンルは偏っており、読書により教養を深めたり心を豊かにしたり視野を広げたりといった高尚な目的はなく、読書を単に楽しむだけで履歴書の趣味の欄に読書と書くことが憚られる体である。私にとって読書は一つの娯楽であり、読書に関して文系の先生方のような示唆に富む話はとてもできないし、ましては巻頭言に相応しい文も書けそうもない。ここでは読書について私の雑感を少し披露することでご容赦いただきたいと思う。

さて、私の読書の始めは小学校高学年からだろうか。もちろんそれまでも本は読んでいたが、どちらかという外で遊ぶ方が好きな普通の子供だった。読書量が増えたのは、小学校の図書館でコナン・ドイルのシャーロック・ホームズがきっかけではないかと思う。ホームズの明晰さや謎解きの面白さに触れ、推理小説の魅力を知った。小学生向けに易しく編集された本だと思うが、私を魅了するのに十分であった。中学校ではアガサ・クリスティーに嵌り、かなりの冊数があったがほとんど読破したと思う。なかでも「そして誰もいなくなった」はこんなプロットもあるのだとその独創性に感心した記憶がある。また、SF小説にもめり込んだ。ちょうど、宇宙戦艦ヤマトの劇場版やスターウォーズが公開された頃である。随分とハヤカワ文庫にお世話になった。その後、小松左京、筒井康隆、星新一、内田康夫など、現在は東野圭吾に嵌っている。彼は工学系大学出身だけに物語の中の研究・技術の設定が緻密で、工学者の立場から読んで共感できる部分が多い。

読書のメリットとして、教養の涵養、視野の拡大、想像力の錬成、ストレス解消、脳の活性化、読解力の向上、語彙の増大、などがあるらしい。ジャンルがSF・推理小説に偏っている私には前の二つの恩恵はあまりないが、想像力は大いに育まれたのではないかと思う。小説本は基本的に活字のみであり、登場人物、場所、環境など物語の舞台は作家が描写した文章から自分で創造しなければならない。その作業を苦痛だと思ったことはない。好きな作家の本は、自分で意識して舞台を作らなくても読み進めていくうち自然に舞台が頭の中で構築され、自分自身がその中に引き込まれて一緒に体現する感覚さえある。作家は物語の中の何気ない描写や会話からその舞台設定情報を読者に提供しており、作家の文章力には頭が下がる。私は論文で文章を書くがなかなか難しい。理工学系論文なので10人の読者がいれば10人とも同じ解釈をするように正確かつ簡潔に書かなければならないが、自分の文章が読者にどのような創造（解釈）をさせるかを想像しながら書いている。レポート等で学生の書いた文章を目にするが、何を言いたいかわからない場合が多い。学生の文章力の無さもさることながら、読者の立場になってどう考えるかを想像しながら書いて欲しいと思う。その力をつけるためには読書は最適だと考えるのだがどうだろうか。

歳のせい最近物忘れが酷くなった。以前読んだ本を再び読んでいてもこの先どんな展開だったか思い出せないことが多い。残念なことだが、一方で既読の本を真っ新な気持ちで読むことができることに気が付いた。幸いにも家には千冊を超える本が眠っている。退職したら毎日読書三昧というのも良いかもしれない。

クラス・個人多読表彰について

【クラス多読表彰】

クラス多読表彰は、図書館の統計に基づき、一人当たりの貸し出し冊数の多いクラスを表彰し、これを機に学生が一層図書館を活用することを期待するものです。なお、表彰されたクラスには副賞として、希望図書の購入ができる権利を贈りました。



第1位	機械工学科5年	(7.3冊/人)
第2位	物質創成工学専攻1年	(6.7冊/人)
第3位	物質化学工学科2年	(6.3冊/人)
第4位	システム創成工学専攻 機械制御システムコース1年	(6.0冊/人)
第5位	物質化学工学科3年	(5.8冊/人)
第6位	電子制御工学科4年	(4.9冊/人)

【個人多読表彰】

個人多読表彰は、図書館の統計に基づき、貸し出し冊数が多い学生個人を表彰し、これを機に学生が一層図書館を活用することを期待するものです。なお、表彰された学生には副賞として、図書カードを贈りました。

第1位	情報工学科4年	二ツ井克空さん	第6位	物質化学工学科2年	竹下昂琉さん
第2位	物質化学工学科2年	山口三佳さん	第7位	電子制御工学科4年	青木凜夏さん
第3位	物質化学工学科3年	谷本朱美さん	第8位	情報工学科1年	吉田彩人さん
第4位	電気工学科5年	吉村勇人さん	第9位	(非公表)	
第5位	物質化学工学科2年	川嶋相良さん	第10位	機械工学科4年	木村元哉さん

図書の利用にあたっての注意

本は大事に扱きましょう

時々、付箋が付いたままだったり、中に書き込みがしてあったりする専門書が返却されます。誰か他の人が貸してくれた本に、付箋を付けたまま返しますか？中に書き込みをしますか？図書館の本は、あくまで借り物です。皆の本です。そのことを分かったうえで利用してください。

汚損・破損された場合は弁償していただきます。

返却期限を守ってください

期限内に読み切れなかった本(雑誌)は、他の人に予約されていない限り返却期限を延長することができます。

本(雑誌)と学生証をカウンターへ持って来てください。

手続きをせず、そのままズルズルと借り続けることはやめましょう。

図書の延滞があると、新たな貸し出しはできません。

注！意

学生図書委員会 読書のすすめ

電子制御工学科2年 岩崎 圭吾

今年度はとにかく普通のことができない一年となった。

新しくなった図書館も前期はほとんど使用できず、ブックハンティングは前期は中止になったので代わりに推薦図書募集を実施し、後期はオンラインで行うこととなり、毎年恒例の読書感想文コンクールは行われなかった。図書委員という仕事をしていながら、直接本に触れる業務はあまりした記憶が無い。

だが、所謂「おうち時間」の増加により、家で本や漫画を読んだり、ドラマやアニメをみたりする時間が増えたという人も大勢いるのではないだろうか。かく言う私もその一人である。

書籍にも色々種類がある中で、近年は特に、電子書籍の需要が高まり、紙の書籍の売り上げが減少傾向にあるらしいが、私は断然、紙の書籍派である。書店や図書館に立ち寄り、特に何の目的も無く本を眺め、もし何か気になる本を見つけたら、試しに手に取ってみる。そして、購入した本を自宅の本棚に並べ、その背表紙を眺めるのもまた良い。そんな、電子書籍では味わえない時間が、私は好きである。

別に電子書籍を否定したいわけでは無い。私も電子書籍を利用するときがあるし、その利便性にとってもお世話になっている。私が言いたいのは「普段本を読まない人や、電子書籍しか利用しない人も、たまには紙の書籍も読んでみよう。」「普段紙の書籍しか読まない人も、たまには電子書籍を利用してみよう。」ということである。紙の書籍だろうが電子書籍だろうが、今時インターネットでいくらでも注文できるし、幸運にも奈良高専にはとても規模の大きい図書館があるではないか。やれレポートが、課題が、山積みであるだとか、部活があるだとか何かと忙しい高専生だが、せっかくの長期休暇には図書館で本を借りて試みに読んでみてはどうだろうか。高専の長期休暇は本当に“長期”の休暇なのだから。外に出ることがあまり推奨されていない今だからこそ、家での時間を少しでも有意義に使うために。

図書館では希望図書を随時受け付けています

図書館にないのでぜひ備えてほしいという本を募集しています。

カウンターへ申し出ていただくか、toshio@jimunara-k.ac.jpまでメールをお願いします。

詳しくは、図書館ホームページの「資料検索」のタブから「推薦（希望）図書」をご覧ください。

学生図書委員会 読書感想文

.....

本年度は新型コロナウイルスの影響により読書感想文コンクールが中止になりましたので、学生図書委員会による読書感想文を掲載させていただきます。

『奇跡は路上に落ちている』 軌保博光 著

RUNNER'S HIGH

電子制御工学科2年 岩崎 圭吾

テレビで落語家の月亭方正を見たことがある人は大勢いるだろう。彼は二十数年前、お笑いコンビ「TEAM 0」を組んでいた。相方の名前は軌保博光。彼の自伝「奇跡は路上に落ちている」は、映画を撮るために芸人をやめてから、路上人としてその資金を貯め続けていた間のことを記したものである。

同士達と共に借金までして映画製作資金を集めるも、度重なるアクシデントにより予定していたクランクインを断念した彼は、表参道の路上に座っていた。「あなたを見てインスピレーションで言葉を書きます。一枚一円から」はじめは一日数百円しか売り上げが無かった。だが、路上には、たくさんの出会いがあった。禁止されている路上販売をしているために、警察に通報されたりすることもあったが、色々な人たちに励まされながら言葉を書いていくうちに徐々に人だかりができるようになり、売り上げもどんどん伸びていった。やがて今までの言葉をまとめた本を出したり、雑誌やテレビのインタビューを受けたりするようになり、最終的には、個展を開けるようになるまで人気になっていく。

読んでいく中で、路上での活動の様子は、不特定多数の人に見られているところなどがどことなくSNSに似ているように感じた。

この自伝には、今までに書いてきた言葉もいくつか紹介されている。彼の言葉は、「迷ったら迷わず楽しい道へ行け」「君は君が思うより数倍『きれい』だから自信を持って行け」といった、迷いに対してそっと背中を押してもらえたり、勇気が湧いてくるような言葉ばかりだ。ちなみに私の個人的なお気に入りの言葉は、「今日の一步は明日へのプレゼント」である。特に心に残った部分がある。

「昔から、目標や夢は、会う人みんなに言ってきた。もちろん、言葉にして、できなければ恥をかくことになる。実現できなくて恥をかいたことは数え切れない。でも、その程度の恥が何やっちゅうねん。やりたいことは、まず口に出すべきだと思う。そうすることで初めて応援してくれる人も現れる。」ポジティブさと夢に対する貪欲さ。それが努力の原動力となり、たくさんの人を励ます言葉の、素になったのではないだろうか。

確かに奇跡は路上に落ちていた。だがそれ以上に、今まで培ってきた努力の軌跡こそが、夢への大きな一歩になったのではないかと私は思う。

『凶南の翼』 小野不由美 著

凶南の翼を読んで

機械工学科1年 溝上 穹

凶南の翼とは、大きな事業を遠い地で成そうとする志や計画を意味する諺である。そしてその題名の通り、この物語は珠昌という12歳の少女が王になるために蓬山を目指す物語だ。彼女の住む国、恭国は先王が倒れて27年が経ち妖魔が徘徊するほどに乱れていた。そんな中、この国はどうなるのかと嘆きながら、自分は王になれるはずがないと行動しない大人たちに憤りを覚え、ならまず自分が王を目指そうと決意する。そこで旅を続けていく中で、蓬山行く道に詳しい頑丘と出会い、護衛として雇う。珠昌は彼の現実主義で、他の人を助けられない旅の仕方に反発感を抱くが、彼にはそれを「お前に何がわかる」と一蹴されてしまうのだった。彼女はそういう彼と喧嘩をして、1人で旅をすることを決意した。しかし彼女は他の人と旅を続け、妖魔に襲われたりする中で自分も人を犠牲にしたりしながら生き延びて、全てを助けることは不可能だと知った。私がもし小学生の時にこの本を読んでいたなら、おそらくこの本が嫌いだったと思う。なぜなら私は小学生だった時、珠昌のように自分が正しいと思ったことは曲げずに、ずっと押し通すような子だったからだ。きっと大人の事情を押し付ける頑丘を嫌い、それを徐々に受け入れていく珠昌にも共感できなかつただろう。

小学生の時、年上の他校の集団に意地悪を言われて、友達とたった2人で文句を言いに行ったことがある。しかし学校の先生には「なんで言いに行ったの？危ないでしょう。他の友達に危険が及ぶかもしれないのに。」と怒られてしまった。その当時はなんで怒られてるのかわからなかったが、今もし文句を言われても年上相手に言いに行こうとは思えない。そして改めて考えると、先生が思わず怒ってしまったこともわかる。実際正しいことでも実行するには危険が伴ったり、したくてもできないことだってある。それをこの本を通して改めて感じ、それでもなお清く正しくいようとする珠昌の綺麗な心に感動した。さらに、自分も昔は持っていたそのような考え方がいつの間になくなってしまっていたことが悲しくなった。理想主義と現実主義はどちらがいいのかはわからないが、今後は少し珠昌を見習って、清く正しく生きていくのに拘ってみてもいいかもしれない。

図書館だよりの表紙絵について

図書館だよりの表紙絵は、美術の授業の作品で教員から推薦された中から、教育支援センター運営委員会での投票により選出しています。ホームページでは、候補作も含めすべての作品がご覧になれます。アニメーション付きのものもあります。

『精霊の守り人』 上橋菜穂子 著

精霊の守り人から学んだこと

情報工学科1年 村上 拓也

女用心棒である主人公バルサが、川に落ちてしまった第二皇子を助けた事から、彼女の運命が、大きく変わります。第二皇子チャグムを助けたお礼に、妃より宮殿でもてなしを受けたバルサ。そこで、バルサは妃より「チャグムの実の父である帝が、精霊の卵を宿した息子を疎み、暗殺を試みている」という衝撃の事実を聞かされ、チャグムの用心棒を頼まれます。刺客は帝の使い手、それは用心棒として実績があり、短槍使いとして、その道では知らぬ者が居ない程の実力を誇るバルサにとっても、命懸けの仕事となる事を意味していたのです。「ここで死ぬか、用心棒としてチャグムを守りきることに賭けるか」の決断を迫られ、依頼を受ける事にしたバルサ。ここから、帝の使い手である刺客からチャグムを守り続けるバルサと、第二皇子であり、運命に翻弄されるチャグムの逃亡劇が始まります。

少しでも気を抜けば殺される、帝の使い手との戦いをする一方で、チャグムの体に宿った精霊の卵によって、振り回される二人。また、卵を狙った異世界の魔物からも命を奪われそうになるチャグム。建国神話の秘密も徐々に明らかになり、神話の秘密を知り、そして事情が理解されたお陰で、かつての刺客達は、異世界からの魔物と共に闘う仲間となっていました。そして、卵を魔物から守りきり、無事に孵ることになるのです。物語は終わったかに思ったその時、第一皇子が病に倒れ、皇太子となる事を告げられるチャグム。チャグムはバルサ達の為に、自らの運命を受け入れ、皇太子として、宮殿に戻ったのです。チャグムを宮殿付近まで送り届け、これからの事を考えるバルサ。そして再び、女用心棒バルサの新たな冒険が始まるのです。

実際に読んでみると、それぞれの登場人物に立場や人生があることを感じさせられ、一人では難しい事でも、友人や仲間と一緒に助け合えば成し遂げられると、仲間の大切さや偉大さを強く感じました。これからは今まで以上に、周りの人達を思いやり、そしてそれ以上に助け合えるように、思いやりを持って生活するよう、心掛けていこうと思いました。

また、読書が好きで数多くの本を読んできたと自負していますが、久しぶりに物語に引き込まれ、没頭してしまった気がしました。これからも、寝る間も惜しんで没頭してしまうような素敵な何かに多く出会いたいのです。

『氷菓』 米澤穂信 著

不思議な日常

情報工学科4年 ニツ井 克空

「わたし、気になります」

これは作品の中で「千反田える」という女子が折木 奉太郎に対して不思議なことが起こった時にいうセリフである。これを最初に読んだときはすごく好奇心の強い子だなと感じた。そこで、なぜそこまで気になるのか知りたくてこの本を読んでみることにした。

この本は文化系部活動が活発で有名な神山高校に入学した男女4人が部員0人で廃部寸前の古典部に入部し学校生活において発生した謎を解決していく作品である。具体的には登場人物の一人である折木は物事に積極的に参加しない「省エネ主義」を信条としており、古典部に関してもあくまで「名前」のみを置いておくつもりだったが千反田の好奇心に引きずり込まれのちに入部した福部里志と伊原 摩耶花ともにドアに鍵をかけていないにもかかわらず施錠されていたことや「神山高校五十年の歩み」という大判の本を借りた当日中に返却されていることや33年前に文化祭の規模縮小を阻止して退学した「関谷 純」に関する謎について解いていくという作品である。

この作品の面白いところは一見日常の様子について描かれているように見えて実は日常的というには不思議な出来事が起こっているというところである。例えば、上記のあらすじにおいて記述した「学校生活における謎」もそうだが普段の生活においてそのようなことはないとは言わないが、少ないように感じる。(すくなくとも私が奈良高専で生活しているうえでは見聞きした覚えはない)しかし、この本を読んだからはもしかしたらこのような不思議なことを発見する努力をしていないだけで実は生活上のいろいろなところであるかもしれないということを考えるようになった。皆さんも「日常生活上の不思議」?を探す努力をしてみてもどうだろうか。

未筆ではあるが、この「氷菓」以外にも古典部シリーズとして6冊の本がすでに発刊されており、図書館にもあるので興味があるなら読んでみてほしい。もしかしたら日常に潜む不思議なことを探すヒントを貰えるかもしれないから。



学生図書委員会作成 図書館&おすすめ本紹介動画

学生図書委員会が図書館とおすすめ本の紹介動画を作成し、高専祭(オンライン)に出展しました。その動画の図書館紹介部分は図書館ホームページで公開しています。

学生図書委員会 活動報告ほか

これまでの活動

電気工学科4年 藪本 健成

今年度の図書委員長と高専祭プロジェクトリーダーを務めさせていただいた4年電気工学科の藪本です。

今年度の図書委員会の活動は、昨年度に続きまして「広報プロジェクト」「雑誌入れ替え+福袋プロジェクト」「読書週間プロジェクト」「高専祭プロジェクト」の4つのプロジェクトで活動を行ってきました。しかしながら、今年度はコロナウイルスの影響により学校に立ち入れず、オンライン形式の授業を行っていたために委員会の立ち上げが遅れてしまいました。また、委員会活動開始後でもコロナ対策のために、会議はオンライン上で行い、プロジェクトごとで集まる場合は、コロナ対策のチェックリストに従いながらなど、皆が慣れない環境の中で活動を行うという形となり、思うように活動ができませんでした。ですが、限られた活動の中でどうしていくのかを会議で話し合い、いろんな案を出し合うなど、できる範囲内で最大限の活動を行うことができましたと思います。

次にブックハンティングについてです。ブックハンティングは、学生の皆さんに図書館へ入れてほしい本を募集し、購入するというものです。活動は年に2回、実際に図書委員が書店へ向かい本を購入するのですが、今年度は、感染対策のために実際に書店へは行かずオンラインブックハンティングという形で図書委員が購入を行わせていただきました。

最後に高専祭プロジェクトについてです。今年度の高専祭プロジェクトは、高専祭がオンラインで行われるということで、動画を作成しました。作成した動画の内容として、改修され新しく生まれ変わった図書館と、図書委員がお勧めする本の紹介です。撮影は感染対策を行いながら撮り、いろんな人の協力のもと作成することができました。昨年度とは全く違う形で高専祭が行われましたが、無事に高専祭プロジェクトとしての活動を行うことができました。

今年度はコロナウイルスの影響によって、時間割や行事のさまざまな変更があり、図書委員会としても例年とは異なった活動の仕方になり厳しい中での活動となりました。そのため慣れないことばかりでしたが、この経験を通して、残りわずかの委員会活動をよりよく出来たら良いなと思います。

広報プロジェクトの紹介と提案 情報工学科4年 ニツ井 克空

初めまして。本年度の図書委員会会計と広報プロジェクトリーダーを務めさせていただいておりますニツ井克空です。

「図書委員会の広報プロジェクトってなにやっているの?」と思う方がいるかもしれませんが、当プロジェクトでは図書館だよりの学生分のとりまとめを主な活動としています。たとえば、今回の図書館だよりで読書感想文及び広報プロジェクトの紹介文を執筆、または学生図書委員が書いた文章を預かり、図書館だよりを編集する方に引き継ぐ仕事をしています。また、会計としては2つ仕事があり、一つは今回8月末に行われた推薦図書募集で購入した本において発生した会計処理を行い、もう一つはTeamsで開催した月例会議においての書記の仕事を行いました。そして、上記の2つの役職とは別に今年度の遠隔授業で使用されたTeamsを図書委員会のほうで活用するための設定（プロジェクト別にチームを立ち上げる）をしておりました。

さて、今年は広報プロジェクトのTwitter運用が中止になったため、主な活動内容の一つがなくなってしまった感じがします。そこであくまで個人的に考えていることなのですが、ブックハンティングなど図書館に関するイベント情報を本校学生や先生方そして外部の方に発信できるツールがあればいいなと考えております。やはり、図書館に関する情報発信が図書館ホームページのみだと、学生の皆さんに情報があまり伝わらず「イベントそのものを知らない」という人が増えてくると考えられるので、気軽に閲覧可能な情報媒体での情報発信は大切かなと考えました。

後半に関しては個人的な提案になってしまいましたが、あと残り短い今年の図書委員会活動を頑張ってまいりたいと考えております。



図書館前で撮影した学生図書委員の集合写真

オンラインブックハンティング

11月25日～12月6日の間、ジュンク堂WEB選書システムを用いてオンラインブックハンティングを実施し、本科生・教員総勢42名が参加しました。学生選定分69冊と教員選定分65冊、計134冊の本を購入しました。

読書週間プロジェクトの紹介 電子制御工学科4年 志富田 大葵

はじめまして。今年度の読書週間プロジェクトのリーダーを務めさせていただいております、電子制御工学科4年の志富田大葵と申します。読書週間プロジェクトでは図書委員のおススメする本やブックハンティングで購入した本を紹介することで、より多くの学生の皆さんに図書館へ足を運んでもらうこと、そして読書を楽しんでいただくことを目的として活動をしています。

今年度は新型コロナウイルスの影響によって委員会の活動が後期から始まりましたが、例年と同じ規模で企画を行えるように努めてまいりました。以下に令和2年度における読書週間プロジェクトの活動報告をさせていただきます。

今年度の読書週間プロジェクトでは、その名の通り読書週間の開催を行いました。読書週間中は図書委員のおススメする本を紹介するコーナーを設け、図書館の積極的な利用を学生の皆さんに促します。その結果として読書週間中はもちろんのこと、読書週間が終わった後も継続的に図書館の利用や読書を楽しんでもらえるようにと活動を行いました。特に今年度は図書館が改修され、内装がとても綺麗になっていますので是非一度は足を運んでいただきたいと思いながら作業をしていました。まだ行かれてない人はこの記事を読んだ後にでも行っていただければ嬉しいです（というか、まだ行かれていないのですか？その四角い画面から一度離れて早くお行きなさい）。

また、例年図書委員会が行っているブックハンティングについてですが、今年度は新型コロナウイルスの影響によりジュンク堂書店への直接的なブックハンティングを行えませんでしたので、図書委員が各クラスで作成した推薦図書リストをもとにオンラインによる選書を行って本を購入するという形式でブックハンティングを行いました。また、学生希望により購入した新着図書は読書週間中に図書委員おススメの本と同時に紹介しました。

最後に、読書週間プロジェクトの活動が皆様により良い本をお届けするきっかけになれば嬉しく思います。楽しい読書ライフを。



読書週間展示

読書週間中（12月8日～21日）、学生図書委員会のおすすめ本（ポップ付き）の展示を行いました。専門書や実用書、小説など、多様なジャンルの書籍が図書館に展示され、学生の知的好奇心を高め、読書を奨励する良い機会となりました。

今年、雑誌入れ替え+福袋プロジェクトのリーダーを務めさせて頂きました、4年機械工学科の今上陽基です。今回の執筆にて1年間の振り返りをするとともに、雑誌入れ替え+福袋プロジェクトの活動内容の報告をさせて頂きたいと思います。

雑誌入れ替えプロジェクトとは、貸し出し回数が少ない雑誌の購入中止や、学生へのアンケートによって図書館に置いてほしい雑誌を選出するといったものです。また、最新刊が発売されているのに図書館に置かれていないという状況を減らすことも本プロジェクトの目的の一つです。今年は、10月に雑誌入れ替えに関するアンケートを実施しようと思っていたのですが、図書館の改修工事や新型コロナウイルスによるオンライン授業のため、ほとんど雑誌が借りられていませんでした。そのため、アンケートの時期を遅らせて行う予定です。

そして、福袋プロジェクトとは、図書委員がおすすめする本を選定し、その本の簡潔な紹介文を掲載し、その本を封入したものを福袋として図書館で貸し出すものです。また、福袋は図書委員にしか中身が分からないので、皆さんにとっては今までに出会った事のない本に出会える楽しみがあります。さらに、私たち自身にとってもおすすめする本を皆さんにお届けすることができるという充足感があります。

最後になりましたが、今年は新型コロナウイルスの流行によってブックハンティングがオンラインになるなど例年とは異なる活動になりましたが、無事に成し遂げることができました。図書委員会では、私たち以外にも図書館をより良いものにしようと頑張っている図書委員がたくさんいます。図書館にはいろいろなジャンルの本がそろっているので、本が好きな方もそうでない方もぜひ図書館にいらしてください。私たちが実施する雑誌入れ替え+福袋プロジェクトを通じて、よりたくさんの人に本を読むことの楽しさが伝わり、お気に入りの本に出会って頂くことができれば幸いです。

編集後記

図書館だより78号に執筆いただいた皆様、ご寄稿ありがとうございました。

学生・教職員の皆様、新しくなった図書館にもう来ていただけましたでしょうか？コロナ禍で利用制限などご不便おかけしておりますが今後ともどうぞよろしく願いいたします。

(図書館)



奈良高専
National Institute of Technology, Nara College

奈良工業高等専門学校 図書館

〒639-1080 大和郡山市矢田町 22

TEL 0743-55-6015

URL <https://www.nara-k.ac.jp/nnct-library/>



この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

図書福袋2021



学生図書委員会が選んだおすすめの図書2冊入りの福袋を、中身がわからない状態で貸し出します。

今年は、スペシャルプレゼント付きの8袋限定で、袋には中身のヒントとなるメッセージや華やかな飾り付きで貸し出しされました。